

## A-1 グループ研究のまとめ

### 1 研究の成果

本グループでは、児童生徒の思考力、表現力を高めるために、調べる活動あるいは説明する活動を取り入れた学習活動の工夫・改善を行った。調べる活動では、自分の考えの根拠を明確にすることの重要性が明らかになった。教科によって、言葉や事象など根拠となる対象に違いはあるが、自分の考えを振り返らせることが、思考力の育成につながると考えられる。説明する活動では、個々の考えを明確にさせた上で、図表や定型文、考えるための観点、ワークシートの工夫などによって表現するための多様な方法に触れさせた。そして、それぞれの考えを説明し理解し合うことが、表現力の育成につながると考えられる。

各研究領域の成果は以下の通りである。

#### (1) 小学校国語科

ア 調べる活動として、情景や心情を適切に表現した言葉や文章を探しながら、自己の読みを明確にする活動を取り入れた。自己の読みの根拠を明らかにし、自ら検討することで思考力の深まりが見られた。説明する活動として、図表を使って読みを比較検討する交流の場を設定した。自分の立場を明確にし、互いの読みの差異について説明し合うことで、表現力の高まりが見られた。

イ 調べる活動として、筆者の考えを表すキーワードをとらえる活動を行った。キーワードを見付ける観点をういて筆者の意図を考えることで、思考力の深まりが見られた。説明する活動として、要約文を推敲する活動を行った。推敲する観点を活用することは、言語事項面、内容面共に正しい要約文の作成、および、筆者の意図を的確に説明する表現力の高まりに効果があった。

#### (2) 中学校国語科

調べる活動として、説明的文章を分析、整理させ、目的に応じて要約させた。要約することで、文章を的確に理解する力が付き、思考力の高まりが見られた。説明する活動として、要約文を生かして、他者に発信する場を工夫した。要約することや文章を読むことに対して目的意識をもち、相手に効果的に伝わるように工夫する生徒が増え、表現力育成に有効であることが分かった。

#### (3) 中学校理科

調べる活動として、グラフから規則性を発見し、その規則性を活用する活動を行わせた。生徒は発見した規則性を基に、未知の値の推測などができるようになり、科学的な思考力の育成に有効であった。また、説明する活動として、思考の過程を他者へ説明する活動を行わせた。思考の筋道と根拠を明確にさせるために工夫したワークシートを使用することで、論理性・実証性の高い説明をできる生徒が増え、論理的な表現力の育成に有効であった。

#### (4) 高等学校理科（化学）

調べる活動として、操作の手順等に工夫を加えた実験を行い、また、説明する活動として、レポート作成の際に、定型文とグループ討議を取り入れた。操作の手順等に加えた工夫が生徒の探究心を高めること、作成した教材が、科学的に思考したことを論理的な表現にするために効果があること、グループ討議が生徒の科学的な思考を高めることに有効にはたらくことが分かった。

### 2 今後の課題

- (1) 考えを説明し理解し合う活動が、効果的に生かせる教材や指導方法の工夫・改善の更なる検討が必要である。
- (2) 身に付けた思考力、表現力を広く生かせるような教科間の連携等の検討が必要である。